

藤 田 聡（ふじた さとし）
東京電機大学 名誉教授 総合研究所客員教授 工学博士



【専攻分野】装置機器学，地震工学，昇降機工学

【本会活動】

理事（情報：会誌担当）：2003 年 6 月～2005 年 5 月

理事（学術：国際担当）：2009 年 6 月～2011 年 5 月

副会長（情報・学術（国際）・事業（大会）担当）：

2021 年 6 月～2023 年 5 月

会誌編集委員会（2001 年～副部会長，2003 年～委員長）：

2001 年 6 月～2005 年 5 月

役員候補者推薦委員会委員：2002 年 6 月～2004 年 5 月

13WCEE に際しての出版物編集委員会委員：2003 年 4 月～2004 年 1 月

阪神淡路 10 周年組織委員会委員：2003 年 4 月～2005 年 7 月

電子メディア委員会委員：2004 年 6 月～2005 年 5 月

地震災害対応委員会委員：2005 年 6 月～2006 年 5 月

国際委員会委員（2009 年より委員長）：2007 年 12 月～2011 年 5 月

16WCEE 誘致委員会委員：2012 年 6 月～2017 年 5 月

地震被害調査関連学会連絡会委員：2013 年 6 月～2022 年 5 月

表彰委員会委員：2021 年 6 月～2023 年 5 月

功績賞選考委員会委員：2021 年 6 月～2023 年 5 月

名誉会員選考委員会委員：2021 年 6 月～2023 年 5 月

性能規定型耐震設計法に関する研究委員会委員：2004 年 6 月～2006 年 5 月

原子力発電所の地震安全問題に関する調査研究委員会委員：2008 年 10 月～2012 年 3 月

原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会：2012 年 9 月～2015 年 3 月

【略歴】

1979 年 慶応義塾大学 工学部 機械工学科 卒業

1981 年 慶応義塾大学 大学大学院 工学研究科 修士課程機械工学専攻 修了

1987 年 工学博士（東京大学）

1981 年 東京大学 助手（生産技術研究所）

1986 年 東京大学 講師（生産技術研究所）

1988 年 東京電機大学 講師（工学部）

1990 年 東京電機大学 助教授（工学部）

1996 年 東京電機大学 教授（工学部）

1992 年 ロンドン大学インペリアルカレッジ客員研究員（日本学術振興会）

【受賞】

米国機械学会（ASME）論文賞（1990 年）

米国機械学会（ASME）論文賞（2000 年）

米国機械学会（ASME）*Certificate of Appreciation*（2001 年）

米国機械学会（ASME）*Certificate of Appreciation*（2004 年）

米国機械学会（ASME）*Certificate of Recognition*（2004 年）

米国機械学会（ASME）*Certificate of Appreciation*（2008 年）

15th Asia Pacific Vibration Conference, *Plaque of Appreciation*（2013 年）

日本機械学会功労表彰 受賞（2017 年）

日本機械学会事業功労表彰 受賞（2017 年）

日本機械学会研究業績賞 受賞（2019 年）

日本機械学会賞論文賞 受賞（2020 年）

日本機械学会名誉員 受賞（2021 年）

【委員会活動(直近 5 年間)】

- ・ 日本建築センター「昇降機等性能評定委員会」委員 (2002 年より委員長) (1997 年～)
- ・ 日本建築設備・昇降機センター「昇降機認定評価委員会」委員長 (2000 年～)
- ・ ISO/TC178 国内審議委員会 委員長 (2010 年～)
- ・ 国土交通省 社会資本整備審議会 委員 (2014 年～2024 年)
- ・ 国土交通省 社会資本整備審議会 建築分科会 委員 (2014 年～2024 年)
- ・ 国土交通省 社会資本整備審議会 昇降機等事故調査部会 部会長 (2014 年～2024 年)
- ・ 国土交通省 社会資本整備審議会 建築分科会建築物等事故・災害対策部会委員・部会長代理 (副部会長) (2014 年～2024 年)
- ・ 国土交通省 社会資本整備審議会 建築分科会 建築基準制度部会 委員 (2014 年～2024 年)
- ・ 日本免震構造協会審議員 (2014 年～2026 年)
- ・ 安全衛生技術試験協会理事 (2016 年～2026 年)
- ・ 日本建築設備・昇降機センター理事 (2020 年～)
- ・ 日本電気協会「原子力規格委員会 耐震設計分科会」分科会長 (2024 年～)
- ・ 日本電気協会「原子力規格委員会 耐震設計分科会 総括検討会」主査 (2024 年～)
- ・ 日本電気協会「原子力規格委員会」委員 (2024 年～)
- ・ 日本防火技術者協会 (JAFPE)「エレベーター避難 WG」委員 (2019 年～)
- ・ 日本機械学会防災・減災委員会 委員長 (2019 年～)
- ・ ハウスプラス確認検査株式会社「超高層建物等の構造方法に関する性能評価委員会」委員 (2020 年～)

【著書および主要論文(代表的なもの 10 編以内)】

- ・ はじめての振動工学, 東京電機大学出版局, 2019 年 4 月 10 日発刊.
- ・ 続はじめての振動工学, 東京電機大学出版局, 2026 年 6 月発刊.
- ・ 昇降機工学, 東京電機大学出版局, 2019 年 11 月 10 日発刊.
- ・ 赤岩秀哉, 深沢剛司, 藤田 聡, 進化過程の微分に基づくノンパラメトリック最適手法の提案 (ベンチマーク関数および履歴曲線の同定に関する検証), 日本機械学会論文集 C 編, Vol.90, No.936 (2024-8), DOI: 10.1299/transjsme.24-00021, 2024 年 8 月 25 日.
- ・ 深沢剛司, 平山智之, 横井 忍, 廣田昭彦, 柚木孝裕, 湯川正貴, 宮川高行, 内田昌人, 山本智彦, 宮崎真之, 渡壁智祥, 岡村茂樹, 藤田 聡, 高速炉向け 3 次元免震システムの研究開発 (1/2 縮尺サイズの試験体を用いた静的特性に関する試験的検討), 日本機械学会論文集 C 編, Vol.89, No.924 (2023-6), DOI: 10.1299/transjsme.23-00023, 2023 年 6 月 25 日.
- ・ 岡村茂樹, 藤田 聡, 村田裕貴, 田中和宏, 小川 哲, 志岐知洋, エレベータの長尺物の振動抑制のための最適な昇降行程分割位置の簡易設定手法の提案, 日本機械学会論文集 C 編, Vol.88, No.911 (2022-7), DOI: 10.1299/transjsme.22-00071, 2022 年 7 月 12 日.
- ・ 深沢剛司, 藤田 聡, 饗庭天暉, 深層学習を活用した構造ヘルスマモニタリングシステムの検討 (弾塑性地震応答解析に基づく有効性の検証), 日本機械学会論文集 C 編, Vol.88, No.910 (2022-6), DOI:10.1299/transjsme.p.22-00006. 2022 年 6 月 25 日.
- ・ 藤田 聡, 都市機能維持のための昇降機技術, 日本地震工学会論文集, Bulletin of JAEE No.46 June 2022, pp.3-7.
- ・ 正木信男, 加藤亨二, 山本智彦, 加藤亨二, 宮川高行, 藤田 聡, 岡村茂樹, 実建物の 47 年間の観測による 厚肉積層ゴムのクリープ挙動, 日本建築学会技術報告集 第 28 巻 第 68 号, 81-84, 2022 年 2 月, pp.81-84.
- ・ Satoshi Fujita, Motoo Shimoaki and Keisuke Minagawa, Report on Seismic Damage of Lifts and Escalators by Large Earthquakes in Japan, Journal of Transportation Systems in Buildings, Vol. 3, No. 1, 2021.

【所信】(700～1000 字程度)

この度, 役員候補推薦委員会から再び会長候補者にご推薦を頂きました. 誠に名誉なことであり, 感謝申し上げますが, 今までに何度かご推薦いただきながらご期待に添えず我が身の不甲斐なさを感じております. 私は 1997 年～2003 年の期間, 日本学術会議第 17 期, 第 18 期「メカニクス・構造研究連絡委員会・地震工学専門委員会」委員として, 当時の関係 4 学会建築・土木・機械・地震の各学会の意見を集約し, 日本地震工学シンポジウム開催発議を行うという役割があることを知りました. 耐震・防災技術はこうした横連携が重要であり, こうした学会の設立が急務であると恩師からも教わっておりまし

た.

私は機械工学が専門で、大学院修士課程では、原子炉緊急冷却用立軸ポンプの耐震解析を行い、1980年初頭より藤田隆史先生の元、免震構造／免震用積層ゴムの研究・開発に従事させていただきました。その後一貫して、構造物の振動制御技術に関わる研究・開発を続けてきましたが、1990年代後半からは昇降機の性能評価業務及び安全性向上の仕事を始め、これまでに、昇降機性能評価、昇降機耐震設計指針の改訂作業、事故調査分析等に従事してまいりました。

私の関わってきた機械系技術分野は、建築・土木分野との密接な関係があり、機械工学に軸足を置きながらも常に建築、土木、地盤工学、地震学の研究者、技術者からの協力をいただけてきました。言い換えますと、機械分野は日本地震工学会の横連携に繋がる分野であり、今後はより一層、機械系若手研究者の入会を促す事で当該分野に係る新技術開発を進めるべきであると考えています。

また、昨今、都心機能維持の観点から、モニタリング技術、AIといった技術を駆使して利用者の利便性、安全性を向上する試みが進められていますが、当該技術の社会実装には分野を横断した協力が必要であると考えます。これは、私の出身母体である日本機械学会でも重要な方向性であると位置付けられており、日本機械学会会長の元「防災・減災委員会」が設置され活動しています。

「防災・減災」技術は我が国において必要不可欠な学問領域であるとともに、絶えず進歩・発展させることで若手研究者・技術者が生きがいを感じて仕事に邁進できる環境を作ることが重要です。日本地震工学会はこうした動きの中心になるべきであり、私も微力ながらその実現に向けて努力していく所存であります。

以上